

## New Leader's Ambition ニューリーダーの抱負

### “免疫を診る”専門医療が担う未来

松本 功

筑波大学医学医療系  
膠原病リウマチアレルギー内科



2022年2月から、膠原病リウマチアレルギー内科教授を拝命いたしました松本功でございます。この度はこのような執筆の機会を与えていただいたニュースレター編集委員諸先生、日本リウマチ学会会員及び事務局の皆様にご挨拶申し上げます。

私は1991年に北海道大学医学部を卒業し、千葉大学第2内科での臨床研修と大学院、海外留学ではフランスIGBMC研究所とハーバード大医学部と2か国での研究生生活を送り、2001年、丁度9.11同時多発テロ事件の直後に帰国して筑波大学に所属、現在に至ります。

膠原病リウマチ専門を決定するときに、住田孝之先生（現筑波大学名誉教授）から手渡された本が“免疫の意味論”という多田富雄先生の著書でした。住田先生は熱く免疫学を語られ、自己免疫疾患は未だ不明なことが多く、臨床及び研究者にとっては宝の山であるという強いメッセージをいただきました。また、多田先生の著書に関しては、自分は哲学的なことはあまり得意ではないのですが、先人の知恵を学ぶ歴史がすごく好きで、時代を貫いた多田先生のお言葉は今でも深く心に刻まれております。

2000年に、留学中のハーバード大学で臨床サンプルを供与いただいた先生の外来見学をさせていただいたのですが、TNF阻害薬治療のあまりの有効性に驚愕したことを今でも思い出します。筑波大学に着任後は、2002年より科学技術振興機構さきがけ21研究員兼任も経験し現在に至ります。筑波大学では多くの優秀なメンバーとともに臨床・研究・教育を行ってきました。臨床面では2003年より日本でもTNF阻害薬が認可され、RA診療が激変しました。膠原病診療でも有効なターゲット製剤が増加しており、診療の幅が広がって多くの患者さんの寛解が目指せる治療ができるようになり、大変やりがいがあります。

その時代に、我々は未来に向けて何ができるのか？ 困っている患者さんに役立つ治療・研究をしたい一念で膠原病リウマチの臨床と研究を行ってきましたが、更なる疾患制御と治癒に到達するためには、現代の基礎・臨床研究の双方を理解し推し進める必要があると考えます。膠原病リウマチは臨床と研究の距離が近く、知的探求心を揺さぶられる領域です。日々の診療や研究で疑問を持つことが大変多く、個人差も大きいですが、収集した情報をなるべく的確にくみ上げ仮説を立て、皆で疑問を解決していきたいと思っております。“免疫を診る”全人的医療ができるよう、常に患者さんから学びながら、未来の病因解明を目指していく所存です。今後とも皆様方のご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

